

## Ⅲ-6

### 条約や法律では実現できないー持続可能な発展とは学びの過程(2)

Ⅲ-5の資料では、持続可能な発展を実現させるためには人間の行動様式や生活様式、そしてそれらの基盤となる価値観の総体である文化が変化しなければならないこと、文化が変化するためには教育が重要な役割を担っていることを、ごく簡単に見てきました。その中で、我々の「消費」が、そして消費を含めた我々の「選択」が最終的に重要なカギを握ることを確認しました。それを受け、この資料Ⅲ-6では我々の消費や選択の問題を中心に話を進めていきます。

【28】選択することにより、我々はさまざまな連鎖とつながっている

Jokainen suomalainen liittyy päivittäisten valintojensa kautta kymmeniin erilaisiin sosiomateriaalisiin ketjuihin, jotka yhdistävät ihmisiä ja instituutioita paikallisella ja globaalilla tasolla. Yleensä emme tiedä missä olemme mukana valintojemme kautta, mutta selvää on, että kiinnittymällä päivittäisten valintojeni kautta näihin ketjuihin tuen niiden olemassaoloa. Jos tuotteelle tai palvelulle ei ole kysyntää, ei sitä enää tuoteta. Oleellinen kysymys onkin esimerkiksi millaista ketjua tuen napsauttaessani valot päälle asunnossani?

#### ■ 語句・文法

valintojensa「自らの選択の」[複属]+ 単 3 所接 < valinta < valita / sosio-materiaalisiin「社会物質的な」[複入]< -materiaalinen (sosio-materiaalinen とは難しい言葉ですが、ここでは、一方では技術のような物質的な世界と、他方では人間が作る社会との間には密接なつながりがあり、両者を切り離して考えることはできないといったことを意味していると考えればよいと思います。) / ketjuihin「鎖へ、連鎖へ」[複入]< ketju / instituutio「組織、制度」 / missä olemme mukana「我々がどこに加わっているのか、我々が何にかかわっているのか」 / valintojemme「我々の選択の」[複属]+ 複 1 所接 < valinta / kiinnittymällä「貼りつくことにより、結びつくことにより」MA 不[接]< kiinnittyä < kiinnittää < kiinni / valintojeni「私の選択の」[複属]+ 単 1 所接 < valinta / tuen「私は支持する」現単 1 < tukea / kysyntä「需要」< kysyä / ei tuoteta「生産されない」受現否< tuottaa / napsauttaessani「私がクリックするときに、私がパチンと押すときに」e 不[内]+ 単 1 所接[時構]< napsauttaa / päälle「(照明や電気などが)つくように、点灯するように」⇒ päällä, päältä / asunnossani「私の住居において」[内]+ 単 1 所接 < asunto < asua

#### ● フィンランド語理解のための訳例

すべてのフィンランド人は結びついている | 日々の選択を通じて | 数十のさまざまな社会物質的な連鎖へ、 | それらは結びつける | 人間と組織・制度とを | 地域的な | そしてグローバルなレベルにおいて。一般的に | 我々は知らない | 我々がどこに加わっているのか | 我々の選択を通じて、 | しかし明らかである | <次の> [ことが | 結びつくことにより | 日々の私の選択を通じて | これらの連鎖へ | 私は支えている | それらの存在を]。もし製品へ | あるいはサービスへ | 需要がなければ、 | それはもはや生産され

ない。本質的な問題は|たとえばどのような連鎖を私が支えているのかということである|私が押すときに|灯りがつくように|私の住まいで。

### ◎意訳

すべてのフィンランド人は日々の選択を通じて、人々や組織を結びつけている何十という社会物質的な連鎖に、地域レベルにおいても地球レベルにおいてもつながっている。ふつう我々は自分たちの選択を通じて何にかかわっているのかわかっていないが、日々の選択を通じてこれらの連鎖につながるにより、それら連鎖の存在を支えていることは明らかである。なぜなら、何らかの製品やサービスに対して需要がなければ、それらがもはや生産されることはないのだから。本質的に重要な問題となるのは、たとえば私が自分の部屋で明かりをつけるためにスイッチを押すときに、私がいったいどのような連鎖を私が支えているのかということである。

### ★補足

我々の日々の消費や選択がどのような連鎖と結びついているのか、それを感じることは非常に難しくなっています。その理由の一つが、いわゆる「グローバル化」などと呼ばれる現象ですが、それについては【34】以降で見ていきます。我々の日々の行動がどのような連鎖と結びついているのか、たとえば持続可能な発展のための教育においては、次のように自らに問いかけることできるだろうと考えられます。

### 【29】日々の選択について自らに問いかけることが重要

Päivittäisten valintojemme osalta voimme kysyä kysymyksiä, joihin vastaukset saatuamme saatamme muuttaa käyttäytymistämme. Näitä yksinkertaisia kysymyksiä ovat esimerkiksi seuraavat:

- > Missä tämä peruna on viljelty? Miksi?
- > Kuka tämän kalan pyydysti, perkasi ja valmisti? Missä? Miksi?
- > Mistä meidän sähkömme tulee ja miten sitä tuotetaan? Miksi?
- > Miksi kaupassa myydään brasilialaista, thaimaalista, argentiinalaista, uruguaylaista tai namibialaista lihaa? Miksi se on usein halvempaa kuin suomalainen liha?
- > Mistä nämä farkut tai t-paita on tehty? Kuka ne ompeli? Miksi?
- > Ketkä poimivat meillä juotavan kahvin pavut? Miksi?
- > Miten meidän talomme pysyy lämpimänä? Mikä on lämmön lähde ja mistä sitä saadaan? Miksi?
- > Mistä suklaa valmistetaan? Ketkä kaakaoviljelmillä työskentelevät? Miksi?
- > Mistä tämä kännykkä tulee? Ketkä sen valmistivat? Kuka louhi raaka-aineet? Miksi?
- > Millainen tarina tölkillisellä colajuomaa on?

## ■ 語句・文法

osalta「～に関しては」[奪]<osa/saatuamme「我々が手に入れた後で」受過分[分]+ 複 1 所接  
[時構]< saada/käyttäytymistämme「我々の行動を、我々のふるまいを」[分]+ 複 1 所接 <  
käyttäytyminen 動名 < käyttäytyä/yksin-kertaisia「単純な」[複分]< -kertainen/seuraavat  
「次のような(もの)」[複主]< seuraava 能現分 < seurata/on viljelty「栽培されている」受完 <  
viljellä/pyydystää「捕る」< pyydys < pyytää/perkasi「内臓をとった、きれいにした」過単 3 <  
perata/halvempaa「より安い」[分]< halvempi 比 < halpa/farkut「ジーンズ」[複主]< farkku  
/on tehty「作られている」受完 < tehdä/ompeli「縫った」過単 3 < ommella/meillä juotavan  
kahvin「我々のところで飲まれるコーヒーの」(juotavan[属]< juotava 受現分 < juoda)/pavut  
「豆を」[複主対]< papu/lämpimänä「暖かく、暖かい状態で」[様] < lämmin/lämmön「暖かさ  
の、熱の」[属]< lämpö/lähde「源、出所」/valmistetaan「製造される」受現 < valmistaa < valmis  
/kaakao-viljelmillä「カカオ農園で」[複接]< -viljelmä/kännykkä「携帯電話」⇒ käsi?, kämmen?  
/louhia「採掘する、掘り出す」/raaka-aine「原(材)料」/tölkillisellä cola-juomaa「一缶のコーラ  
飲料に」(tölkillisellä[接]< tölkillinen < tölkki)

## ● フィンランド語理解のための訳例

日々の我々の選択に関しては|我々は尋ねることができる|質問を、|それらに対して答えを|我々  
が手に入れた後で|我々は変えるかもしれない|我々の行動を。これら単純な質問とは|たとえば次  
のようなものである:

- > このジャガイモはどこで栽培されているのか。なぜか。
- > 誰がこの魚を釣ったのか、|内臓を取り除いたのか|そして調理したのか。どこでか。なぜか。
- > どこから我々の電気は来ているのか|そして、どのようにそれは生産されるのか。なぜか。
- > なぜ店では売られているのか|ブラジルの、タイの、アルゼンチンの、ウルグアイの、あるいはナ  
ムビアの肉が。なぜそれらはしばしばより安いのか|フィンランドの肉よりも。
- > 何から|このジーンズとTシャツは作られているのか。誰がそれらを縫ったのか。なぜか。
- > 誰たちが摘んだのか|我々のところで飲まれるコーヒーの豆を。なぜか。
- > どのように我々の家は暖かく保たれているのか。何が暖かさの源なのか|そしてどこからそれは  
得られるのか。なぜか。
- > 何からチョコレートは作られるのか。誰たちがカカオ農園で働いているのか。なぜか。
- > どこからこの携帯電話は来るのか。誰たちがそれを作ったのか。誰が原料を掘り出したのか。  
なぜか。
- > どのような物語が|一缶のコーラ飲料には|あるのか。

## ◎ 意訳

我々の日々の選択について、我々は問いかけをすることができるし、それらに対する答えを得た後  
で我々は自分たちの行動を変えるかもしれない。そのような単純な問いかけとは、たとえば次のよう  
なものである。

- > このジャガイモはどこで栽培されているのか。それはなぜなのか。
- > 誰がこの魚を釣り、内臓を取り除き、そして調理したのか。どこでなのか。それはなぜか。
- > 我々の使う電気はどこから来ているのか、そして、それはどのように生産されているのか。それはなぜなのか。
- > なぜ店ではブラジル産、タイ産、アルゼンチン産、ウルグアイ産、あるいはナムビア産の肉が売られているのか。それらがしばしばフィンランド産の肉よりも安いのはなぜなのか。
- > このジーンズとTシャツは何から作られているのか。誰がそれらを縫ったのか。それはなぜか。
- > 我々が飲むコーヒーの豆は誰が摘んでいるのか。それはなぜか。
- > どのようにして我々の家は暖かいままなのか。そのための熱源は何なのか、そしてその熱はどこから得られるのか。それはなぜか。
- > チョコレートは何から作られるのか。誰がカカオ農園で働いているのか。それはなぜか。
- > この携帯電話はどこから来るのか。誰がそれを作ったのか。誰が原料を掘り出したのか。それはなぜか。
- > 一缶のコーラ飲料ができあがるまでには、どのような物語が隠されているのか。

【30】よい生活とは所有すること、そして消費することなのか？

Väitän, että sivistyksemme on rapautunutta. Hyvä elämä hahmottuu ajassamme ja kulttuurissamme kapea-alaisesti omistamisen ja kuluttamisen kautta. Vallalla oleva olemassa olemisen ihanne ei kiinnitä riittävästi huomiota sen maailman laatuun, joka on jäämässä lapsillemme ja lastenlapsillemme.

#### ■ 語句・文法

väittää「主張する」／sivistyksemme「我々の文明は」[主]+ 複 1 所接 < sivistys／rapautunutta「砕けてしまった、崩壊してしまった」[分]< rapautunut 能過分 < rapautua／hahmottua「形を成す、形成される」< hahmottaa < hahmo／ajassamme「我々の時代においては」[内]+ 複 1 所接 < aika／kapea-alaisesti「狭く」[副]< -alainen／omistamisen「所有することの」[属]< omistaminen 動名 < omistaa／kuluttamisen「消費することの」[属]< kuluttaminen 動名 < kuluttaa／vallalla oleva「支配的であるような」(vallalla[接]< valta, oleva 能現分 < olla)／olemassa olemisen「存在することの」(olemassa MA 不[内]< olla, olemisen[属]< oleminen 動名 < olla, olla olemassaで「存在する」)／ihanne「理想」／ei kiinnitä huomiota「注意を向けない」／laatuun「質へ」[入]< laatu／on jäämässä「残ろうとしている、残されようとしている」(jäämässä MA 不[内]< jäädä)

#### ● フィンランド語理解のための訳例

私は主張する|我々の文明は崩れ去っている。よい生活は形を成す|我々の時代において|そして我々の文化において|狭く|所有することと消費することを通じて。支配的であるような|存在することの理想は|注意を向けない|十分に|その世界の質へ、|それは残されつつある|我々の子どもたちへ|そして我々の孫たちへ。

## ◎意訳

我々の文明は崩れ去ったと私は主張する。我々の時代においては、そして我々の文化においては、よい生活とはただ所有することと消費することだけを通して成立している。現在支配的となっているような人間の理想的な在り方というものは、我々の子どもたちや孫たちに引き継がれる世界の質というものに十分な注意を払っていない。

## ★補足

次の文章以降では *eko-sosiaalinen sivistys* 「生態社会的文化、生態社会的文明、生態社会的教養」という言葉が出てきます。この言葉はごく簡単にいえば、人間が自然に依存するとともに、人間どうしが依存しあっているということ、あるいは自らの権利や義務が自然や他の人間の厚生・幸福に依存しているということ認識したうえで、周りの世界との関係に責任をもとうとするような文化・文明・教養のことを意味するようです。逆の言い方をすれば、これまで我々が築いてきた文化・文明・教養というものは、自然や他の人間と敵対することを基盤とするものだったといえるのかもしれませんが。

少し前の【29】では、日々の選択に際して我々がどのような問いかけをすることができるのか述べられていました。たとえば、新しい携帯電話を買おうとするときに、「デザインがすてきか」「バッテリーはどのくらいもつのか」「写真はきれいに撮れるのか」、そして何より「価格はどうなっているのか」ということを問いかけるのが、現在まで我々が作り上げてきた文化・文明に沿ったものなのかもしれません。それに対して、【29】にあったように、「この携帯電話はどこで誰によって作られたのか」「その原材料となるものはどこで誰が採掘したものなのか」といった問いかけをしようとするのが「生態社会的文化・文明・教養」の出発点なのかもしれません。

## 【31】短期的視点を超えて考えることが重要

*Ekososiaalinen sivistys ilmenee yhteiskunnassa aktiivisena kansalaisuutena. Kestävän kehityksen edistäminen on uusi normaali, jota kansalaiset odottavat toisiltaan. Kansalaiset näkevät lähelle ja etenkin kauas: he pohtivat aktiivisesti tulevaisuutta yli seuraavien vaalien ja budjettikauden pystyäkseen turvaamaan tulevien sukupolvien mahdollisuudet jokapäiväisessä toiminnassaan. Ekososiaalinen sivistys sallii näkökulmien jännitteisyyden ja ratkaisujen keskeneräisyyden. Sille on ominaista jatkuvan parantamisen periaatteen mukainen ketteryys ja uusiutumiskyky.*

## ■語句・文法

*eko-sosiaalinen sivistys* 「生態社会的文化、生態社会的文明、生態社会的教養」／*ilmetä* 「現れる」  
< *ilmi*／*kansalaisuutena* 「市民であることとして」 [様] < *kansalaisuus* < *kansalainen*／*edistäminen*  
「促進すること」動名 < *edistää*／*normaali* 「標準の、基準となるような、常識」／*toisiltaan* 「たがいから」 [複奪]+ 複<sub>3</sub> 所接 < *toinen*／*yli seuraavien vaalien ja budjettikauden* 「次の選挙や予算会計年度を超えて」／*pystyäkseen* 「できるために」A 不[変]+ 複<sub>3</sub> 所接 < *pystyä*／*tulevien sukupolvien* 「将来世代の」 [複属] < *tuleva suku-polvi* (*tuleva* 能現分 < *tulla*)／*joka-päiväisessä*

toiminnassaan「日々の活動における」(toiminnassaan[内]+ 複 3 所接)／jännitteisyyden「緊張関係を」[属対]<jännitteisyys<jännitteinen<jännite<jännittää<jänne／kesken-eräisyyden「不完全さを」[属対]<-eräinen／jatkuvan parantamisen periaatteen mukainen「たえず改善する原則にしたがうような」(jatkuva 能現分 <jatkua、parantamisen [属]<parantaminen 動名 <parantaa、periaatteen「原則の」[属]<periaate)／ketteryys「機敏さ、敏捷性」<ketterä／uusiutumiskyky「刷新能力」(uusiutumisen <uusiutuminen 動名 <uusiutua <uusi)

### ●フィンランド語理解のための訳例

生態社会的文化は現れる|社会において|積極的な市民であることとして。持続可能な発展を促進することは|新しい常態である、|それを市民は期待する|たがいから。市民は見る|近くへ|そしてとくに遠くへ|:彼らは検討する|積極的に|将来を|次の選挙や予算会計年度を超えて|守ることができるよう|将来世代の可能性を|日々の活動において。生態社会的文化は許す|視点の間の緊張関係を|そして解決策の不完全さを。それには特徴的である|継続的な改善の原則にしたがうような|敏捷性と刷新能力が。

### ◎意訳

生態社会的文化というものは、社会において積極的な市民であるということとして姿を現す。持続可能な発展を推進することは、市民がたがいに期待し合うような新しい常識である。生態社会的教養を身につけた市民は近くを、そしてとくに遠くを見つめている:つまり、将来世代の可能性を守ることができるよう、次の選挙や会計年度といった短期的視点を超えて、彼らは日々の活動において積極的に将来について検討するのである。生態社会的文化は、さまざまな視点がたがいに緊張関係に陥ることや、あるいは何らかの解決策が完全なものではないということを許容する。生態社会的文化に特徴的なのは、継続的に改善をめざすという原則にもとづくような敏捷性と刷新能力なのである。

### 【32】受動的な消費者として生きることには満足してはいけない

Ekososiaalisesti sivistynyt kansalainen on sisäistänyt demokratian perusperiaatteen, jonka mukaan jokaisella kansalaisella on vain yksi ääni. Hän ei jää lomaantuneena tarkastelemaan vaikutusmahdollisuuksiensa kapeutta esimerkiksi ostopäätöksiä tehdessään, sillä passiivisena kuluttajana eläminen ei tyydytä hänen sisäistä näkemystään ihmisestä osana yhteiskuntaa. Hän tietää, että jokaisella valinnalla on vaikutusta, sillä jokea ei synny ilman pieniä puroja. Eikä puroja ilman pieniä pisaroita.

### ■語句・文法

eko-sosiaalisesti「生態社会的に」[副]<-sosiaalinen／sivistynyt「教養を身に着けたような」能過分 <sivistyä <sivistää／on sisäistänyt「内面化している、自分のものとしている」完 <sisäistää <sisäinen <sisä-／lomaantuneena「力を失って」[様]<lomaantunut 能過分 <lomaantua <lama／jääda tarkastelemaan「調べるままになる、観察するままになる」／vaikutus-mahdollisuuksiensa「自

らの影響を与える可能性の」[複属]+ 単 3 所接 < -mahdollisuus/kapeutta「狭さを」[分]< kapeus < kapea/osto-päätöksiä「購入の決定を」[複分]< päätös/tehdessään「するときに」e < [内]+ 単 3 所接[時構]< tehdä/eläminen「生きること」動名 < elää/tyyydyttää「満足させる」< tyytyä/sisäistä näkemystään ihmisestä osana yhteis-kuntaa「社会の一部としての人間についての内面的な見方を」(näkemystään[分]+ 単 3 所接 < näkemys)/valinnalla「選択には」[接]< valinta < valita/puroja「小川」[複分]< puro/pisaroita「水滴、雫」[複分]< pisara

### ●フィンランド語理解のための訳例

生態社会的に教養を身につけた市民は|内面化している|民主主義の基本原則を、|それによれば|それぞれの市民にはただ一票がある。その人は残らない|力を失って|観察するために|自らの影響を与える可能性の狭さを|たとえば|購入の決定をするときに、|というも|受動的な消費者として生きることは|満足させない|[その人の内面の見方を|人間について|社会の一部として]。その人は知る、|<次の>[ことを|すべての選択には影響がある]、というも|川は生まれぬ|小さな流れなしに。そしてまた<生まれぬ>|小さな流れは|小さな雫なしに。

### ◎意訳

生態社会的な教養を身につけた市民は民主主義の原則を内面化しているが、それによれば人はすべて一票の発言権をもつのみである。ただし、<生態社会的な教養を身につけた>市民は、たとえば何かを購入する決定をする際に、自らが社会に影響を与えられる可能性の小ささをただ無力に見ているだけではない。なぜなら、社会の一部としての人間についてその<生態社会的な教養を身につけた>人が内面化している考え方というものは、ただ受動的な消費者として生きることによって満足させられるものではないからである。<生態社会的な教養を身につけた>市民は、一つ一つの選択により影響を与えられるのだということを知っている。なぜなら小さな流れがなければ川が生まれることはないし、また小さな流れも一滴一滴の雫なしには生まれることはないからである。

### 【33】福祉国家においてさえ人間の尊厳は軽視されている

Olemme vauraampia kuin koskaan aikaisemmin, mutta mahdollisuutemme vaikuttaa arkisiin asioihimme tuntuvat usein pienentyneen esimerkiksi tuottajan ja kuluttajan välisen etäisyyden vuoksi. Toisaalta moraalin väljähtyminen on läsnä aivan lähelläkin: vanhusten arvokkuus tai arvottomuus suomalaisessa yhteiskunnassa kiteytyy vaippasäkin ja hoitajan palkan välisen kustannuksen vertailuun. Vaipan punnitseminen ennen sen vaihtoa on jo seuraava tiedossa oleva tehostustoimenpide yrityksen omistajien taloudellista voittoa maksimoitaessa. Hälyttävää on se, että tämänkaltaisia ihmisarvon ohituksia tapahtuu maailman vauraimmissa hyvinvointivaltioissa.

### ■語句・文法

vauraampia「より豊かな」[複分]< vauraampi 比 < vauras/kuin koskaan aikaisemmin「以前のどのときよりも」/tuntuvat pienentyneen「小さくなったように感じられる」[分構] (pienentyneen

[属] < pienentyntyt 能過分 < pienentyä < pienentää < pieni) / etäisyys 「距離、離れていること」 / väljähtyminen 「衰えること、弱まること」 動名 < väljähtyä / arvokkuus 「価値があること、尊厳」 < arvokas < arvo / arvottomuus 「価値のないこと」 < arvoton < arvo / kiteytyä 「結晶化する、具現化する」 < kide / vaippa-säkki 「おむつ入れ、おむつ袋、おむつケース」 / vertailu 「比較」 / punnitseminen 「重さを量ること」 動名 < punnita / vaihto 「取り換え」 < vaihtaa / tiedossa oleva 「知られているような」 (oleva 能現分 < olla) / tehostus-toimen-pide 「効率化措置、効率化策」 (tehostus < tehostaa < teho) / voitto 「利益」 / maksimoitaessa 「最大化するときに」 受 e 不 [内] < maksimoida / hälyttävä 「憂慮すべき、警戒すべき」 能現分 < hälyttää / ihmis-arvo 「人間の価値、人間の尊厳」 / ohituksia 「追い越し、軽視」 [複分] < ohitus < ohittaa < ohi / vauraimmissa 「もっとも豊かな」 [複内] < vaurain 最 < vauras / hyvin-vointi-valtio 「福祉国家」

### ●フィンランド語理解のための訳例

我々はより豊かである | 以前のどのときよりも、 | しかし我々の可能性は | 影響を与えるための | 日常の物事へ | 感じられる | しばしば | 小さくなっているように | たとえば | 生産者と消費者の間の距離のために。一方、道徳の衰えが存在する | ごく近くでも | : 老人たちの | 価値があること | そして | 価値がないこと | フィンランド社会において | 具現化する | おむつ入れの | そして | 介護者の給料の | 間の費用の比較へ。おむつのおもさを量ること | それを交換する前に | すでに次の | 知られているような | 効率化策だ | 企業の所有者の経済的利益を | 最大化するときに。憂慮すべきである | < 次の > ことは | このような人間の尊厳の軽視が | 起きている | 世界のもっとも豊かな福祉国家において。

### ◎意識

我々はこれまでのどの時代よりも裕福になっているが、たとえば生産者と消費者が遠く離れてしまっているがために、日常の物事に我々が影響を与えられる可能性は小さくなってしまっているようにしばしば感じられる。一方では道徳の荒廃はごく近くにも存在している: たとえば、フィンランド社会において老人たちの尊厳の有無は、おむつ入れに必要とされる費用と介護者の賃金にかかる費用との比較という形で表される。企業経営者の経済的利益を最大化しようとする際には、おむつを交換する前におむつの重さを量ることが次に行うべき効率化策であることがすでに知られている。憂慮すべきは、このような人間の尊厳の軽視が世界でもっとも裕福だとされる福祉国家において起きていることである。

### ★補足

いくら「おむつ代」がかかるのか、「介護者」の給料はどのくらいなのか、ということを通じてしか老人の価値は判定されない。そして次には、「老人が快適に過ごせるのか」ということではなく「おむつがどのくらい重くなっているのか」によって「おむつ」の交換時期を決定するようになる。このようなことが本当にフィンランドで起きているのか、勉強不足で確認できてはいませんが、同様のことは少なくとも日本でも耳にします。経済成長、簡単にいえば利益を大きくすることが至上命題であれば、このような事態になるのもやむをえないのかもしれません。それが嫌なら、経済成長至上主義を否定するしかないのではないのでしょうか。

### 【34】我々の選択の影響は遠くの地へ及んでいる

Jokaisen ihmisen teot ja tekemättä jättämiset vaikuttavat muihin ihmisiin, luontoon ja talouteen lähellä ja kaukana. Esimerkiksi kolmasosa suomalaisen kuluttamiseen liittyvistä hiilidioksidipäästöistä ja noin puolet suomalaisen ihmisen päivittäisestä lähes neljäntuhannen litran suuruudesta vesijalanjäljestä syntyy ulkomailla (Caldeira ja Davies, 2010; Nikula, 2012).

#### ■ 語句・文法

teot「行為」[複主]< teko < tehdä/tekemättä jättämiset「しないでおくこと、不作為」(tekemättä「せずに」MA 不[欠]< tehdä, jättämiset「(しない)まましておくこと」[複主]< jättäminen 動名 < jättää/ kolmas-osa「3分の1」/ suomalaisen kuluttamiseen liittyvistä hiili-dioksidi-päästöistä「フィンランド人が消費することに関係するような二酸化炭素の排出のうち」(kuluttamiseen「消費することへ」[入]< kuluttaminen 動名 < kuluttaa, liittyvistä「関係するような、結びつくような」[複出]< liittyvä 能現分 < liittyä, hiili-dioksidi「二酸化炭素」、päästöistä「排出のうち」[複出]< päästö) / neljän-tuhannen litran suuruudesta「4千リットルの大きさの」(suuruudesta [出]< suuruinen) / vesi-jalan-jäljestä「ウォーターフットプリント(モノやサービスを消費するために消費された水の総量。なお, jalan-jälki「フットプリント、足跡、人間の活動が環境に及ぼす有害な影響」という語については『フィンランド語の世界を読む』27課のテキスト5と6を参照してください)

#### ● フィンランド語理解のための訳例

それぞれの人間の行為と不作為は影響を与える|他の人々に、自然に、そして経済に|近くで、そして遠くで。たとえば、[3分の1は|フィンランド人が消費することに関係するような二酸化炭素の排出のうち]|そして|[約半分は|フィンランドの人間の|毎日の|ほぼ4千リットルの大きさのウォーターフットプリントのうち]|生まれている|外国で (Caldeira and Davies, 2010; Nikula, 2012)。

#### ◎ 意訳

一人一人の行動や不作為は、他の人々、自然、そして経済に影響を及ぼしており、それは近隣へはもちろん、遠方へも及ぶものである。たとえば、フィンランド人の消費にかかわる二酸化炭素の排出のうち3分の1が、あるいはフィンランド人が日々生み出す4千リットル近くにも及ぶウォーターフットプリントのうち約半分が、海外で生み出されているのである (Caldeira and Davies, 2010; Nikula, 2012)。

#### ☆ 引用文献の中の文献注

【34】の中にある文献注で示されているのは次のものです。

Caldeira, K., & Davies, S. (2010). Consumption-based accounting of CO<sub>2</sub> emissions. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 107(12), 5687—5692.

Nikula, J. (2012). Suomen vesijalanjälki: Globaali kuva suomalaisten vedenkulutuksesta. Helsinki: WWF Suomi. Luettavissa: <http://www.waterfootprint.org/Reports/WWF-2012-WaterFootprintFinland.pdf>

## ★補足

【28】の文章で、我々の日々の行動や選択がどのような連鎖の一部となっているのかを知ることが難しくなっているという話がありました。その理由が【34】、そして次の【35】からわかるように、いわゆる「グローバル化」「国際化」なのだと思います。生産者と消費者との間の距離があまりにも大きくなってしまっているがために、生産も消費も無責任なものになっている可能性があります。

【35】我々の消費の費用は遠くの人々が、そして将来の世代が支払うことになる

Nykyisen talouden maailmanlaajuisuudesta on seurauksena se, että poliittiset ja taloudelliset prosessit ovat omiaan häivyttämään kuluttamiseen liittyvät todelliset kulut itse kuluttajasta kauas ekosysteemejä ja etäällä olevia ihmisyhteisöjä rasittamaan. Lisäksi osa kuluttamiemme todellisista kuluista jää tulevien sukupolvien maksettaviksi (Dauvergne 2008).

## ■ 語句・文法

maa-ilman-laajuisuudesta「世界的規模から」[出]<-laajisuus<-laajuinen<laaja/seurauksena「結果として」[様]<seuraus<seurata<seura/omiaan「~するのに適している、~する傾向がある、~しがちである」[複分]+ 複<sub>3</sub>所接<oma(+MA不[入])/häivyttämään「消す」MA不[入]<häivyttää<häipyä/kuluttamiseen liittyvät todelliset kulut「消費することに関係するような本当の費用を」(kuluttamiseen「消費することへ」[入]<kuluttaminen 動名<kuluttaa<kulua, liittyvät「関係するような」[複主対]<liittyvä 能現分<liittyä, kulut「費用」[複主対]<kulu)/kuluttajasta「消費者から」[出]<kuluttaja<kuluttaa/kauas「遠くへ」/eko-systeemejä ja etäällä olevia ihmis-yhteisöjä rasittamaan「生態系や、遠くにある人間共同体に負担をかけるように」(olevia「あるような」[複分]<oleva 能現分<olla, rasittamaan「負担をかけるように、疲弊させるように」MA不[入]<rasittaa)/kuluttamiemme「我々が消費するようなものの」[複属]+ 複<sub>1</sub>所接<kuluttama 動分<kuluttaa/todellisista kuluista「本当の費用のうち」[複出]<todellinen kulu/tulevien suku-polvien maksettavaksi「将来の世代によって支払われるものとして」(maksettavaksi[変]<maksettava 受現分<maksaa)

## ● フィンランド語理解のための訳例

現在の経済の|世界的規模であることから|結果としてある|<次のような>[ことが|政治的な、そして経済的な過程が消してしまう傾向にある|消費することに関係するような本当の費用を|消費者自身から|遠くへ|生態系や遠くにある人間共同体に負担をかけるように]。加えて|[一部は|我々が消費するものの|本当の費用のうち]|残る|将来の世代によって|支払われるものとして。

## ◎ 意訳

現在の経済というものが世界的規模のものとなっていることにより、さまざまな政治的・経済的過程を経ることになっている結果として、消費にかかわる真の費用負担を消費者自身から引き離される傾向にあり、生態系や遠隔地の人間社会に負担をかける結果となっている。さらに、我々が消費す

るものの真の費用負担のうち一部は将来世代が支払うことになる。

☆引用文献の中の文献注

【35】の中にある文献注で示されているのは次のものです。

Dauvergne, P. (2008). The shadows of consumption: Consequences for the global environment. Cambridge: MIT.

★補足

もしグローバル化といったことが問題なのであれば、持続可能な発展へ向けて一つのカギとなるのは地域化・ローカル化、あるいは市民の参加といったことでしょう。そのような考え方に同意する人間にとっては、いまだに「国際化」「グローバル化」などといっている偉い人々は、何も勉強していないただの愚か者でしかないと感じられるかもしれません。

【36】持続可能な発展とは地域の文化にもとづくべきもの

Ensinnäkin, kuten edellisestä luvusta kävi ilmi, kestävän kehityksen ajatellaan usein olevan kehitystä, joka perustuu paikalliseen toimintatapaan ja paikallisiin resursseihin. Paikallisuuden etuna nähdään usein, että kansalaiset pystyvät parhaiten osallistumaan kehitystä koskevaan päätöksentekoon. Paikallisella tasolla on myös paljon paikallista tietoa, joka voi olla tärkeää esimerkiksi ympäristösuunnittelussa. Paikallistason toiminta ja osallistuminen edistävät myös eri sektoreiden välistä vuorovaikutusta ja auttavat sovittamaan yhteen päätöksenteon eri tasoja. Paikallinen osallistuminen ja vaikuttaminen vahvistavat yhteisöllisyyttä ja paikallista identiteettiä. Kestävän kehityksen kasvatuksessa paikallinen ympäristö ja kulttuuri toimivat erinomaisena oppimisalustana.

■ 語句・文法

ensinnäkin「まず、第一に」/ luvusta「章から」[出] < luku / käydä ilmi「明らかになる」/ kehityksen ajatellaan olevan「発展は～であると考えられる」[分構] (ajatellaan 受現 < ajatella, olevan [属] < oleva 能現分 < olla) / toiminta-tapaan「行動方法に、行動様式に、慣習に」[入] < -tapa / paikallisuuden「地域性の」[属] < paikallisuus < paikallinen < paikka / etuna「利益として、利点として」[様] < etu / pystyä「できる」(+ [入] ~MA 不 [入]) / parhaiten「もっともよく」最 < hyvin / kehitystä koskevaan päätöksen-tekoon「発展にかかわる決定へ」(koskevaan [入] < koskeva 能現分 < koskea) / ympäristö-suunnittelu「環境計画、環境デザイン」/ sektoreiden「部門の、セクターの」[複属] < sektori / vuoro-vaikutus「相互作用、交流」/ sovittamaan「合わせる、適合させる」MA 不 [入] < sovittaa < sopia / yhteen「一つに」[入] < yksi / yhteisöllisyyttä「共同体性を、共同体のまとまりを」[分] < yhteisöllisyys < yhteisöllinen < yhteisö < yksi / oppimisalustana「学びの基盤として」[様] < -alusta (oppimis- < oppiminen 動名 < oppia)

● フィンランド語理解のための訳例

まず、|前の章で明らかになったように、|持続可能な発展は|考えられる|しばしば<次のような>発展であると、|それはもつづく|地域の行動方法に|そして地域の資源に。地域性の利点として|考えられる|しばしば<次のような>[ことが|市民ができる|もっともよく|参加することが|発展にかかわる決定へ]。地域レベルにおいてはまた|多くある|地域の知識が、|それは重要でありうる|たとえば|環境計画において。地域レベルの活動と|参加することは|促進する|また異なる部門の間の相互作用を|そして助ける|合わせることを|一つに|決定のさまざまなレベルを。地域的な|参加することと影響を与えることは|強める|共同体性を|そして地域のアイデンティティを。持続可能な発展の教育において|地域の環境と文化は|機能する|すばらしい学びの基盤として。

### ◎意識

まず、前章で明らかになった通り、持続可能な発展とは地域の行動様式と資源にもつづくような発展だと考えられる。地域主義の利点だとしばしば考えられるのは、発展にかかわる意思決定に市民がもっともよく参加できるということである。地域レベルにおいてはまた、たとえば環境計画を立てるうえで重要となる地域独自の知識が多く見つかるだろう。地域レベルで活動し、その活動に参加することは、さまざまな部門が交流を深めることを促進し、異なるレベルにおける意思決定を調整することを助けもするだろう。市民が地域的な活動に参加し影響を及ぼすことは、その地域の共同体としてのまとまりを強め、また地域のアイデンティティを強化することにもなるだろう。したがって、それぞれの地域の環境や文化というものは、持続可能な発展のための教育において学びの基盤として機能するのである。

### ★補足

以上で見えてきたように、いま必要とされることは地域に根差した発展です。ですから、中学校の修学旅行で全員を海外に行かせるといっている自治体の動きなどは、まさに時代錯誤だとしかいいようがありません。生徒たちを海外に連れ出す時間と費用があるのであれば、国内で、あるいは地元で、もっとも有意義な体験を積んでもらい、本当の意味での「国際人」になってもらうことができるはず（海外へ行ってお店で「ハウマッチ？」などといわせることで国際人を育てることなどできません）。

海外へ出かける修学旅行ではなくても、持続可能な発展へ向けて貢献する人間を育てることが、たとえば「手工芸」の授業でできるかもしれません。そのようなことについて読み進めていきます。まずは、日本の「学習指導要領」に当たる「教育課程の基準」における「手工芸」教科目の目的です。

【37】「教育課程の基準」: käsi-työ「手工芸」における持続可能な発展に関する学習の目標

Oppija tutustuu suomalaiseen käsityöperinteeseen sekä muiden kulttuureiden perinteisiin. Oppija saa tietoa ja kokemuksia kansallisesta kulttuurista, perinteestä, muotoilusta sekä muiden kulttuureiden vaikutuksista. Oppija ymmärtää tuotteiden taustalla olevan polun ja oppii käyttämään materiaaleja uudelleen.

#### ■ 語句・文法

käsi-työ-perinteeseen「手工芸の伝統へ」[入]<-perinne/perinteisiin「伝統へ」[複入]<perinne / tuotteiden taustalla olevan polun「製品の背景にある道のりを」(olevan[属対]<oleva 能現分 <olla, polun[属対]<polku「(人や動物が踏み固めた)小道、通り道」)

#### ● フィンランド語理解のための訳例

学習者は親しむ|フィンランドの手工芸の伝統へ|そして他の文化の伝統へ。学習者は得る|知識を|そして経験を|国家的な文化について、|伝統について、|デザインについて|そして他の文化の影響について。学習者は理解する|製品の背景にある道のりを|そして使えるようになる|材料を|あらためて。

#### ◎ 意識

学習者はフィンランドの手工芸のもつ伝統と他の文化の伝統に親しむことになる。学習者は、フィンランド国家の文化、伝統、デザイン、そして他の文化からの影響について知識と経験を得る。学習者は手工芸品の背景を理解し、材料を再利用するようになる。

【38】「手工芸」の授業を通じて「責任をもつ」ということを学ぶ

Käsityön tekemisen kautta mahdollistuu materiaalisen elinympäristön ymmärtäminen, joka ohjaa aikanaan vastuun ottamiseen. Käsityöpajoissa työskentely on käytännön asennekasvatusta kestävä elinkaariajattelun ja arvomaailman rakentajana. Ekologisen kestävyuden näkökulmasta käsityöntekijä voi valita käyttöönsä vastuullisesti, lähellä, uusiutuvista luonnonvaroista valmistettuja raaka-aineita. Voimme valmistaa hyvin suunniteltuja, laadukkaita ja kestäviä tuotteita, jotka voidaan myöhemmin kierrättää, purkaa tai hävittää ympäristöä saastuttamatta.

#### ■ 語句・文法

mahdollistua「可能になる」< mahdollistaa < mahdollinen / materiaalinen「物質的な」 / elinympäristö「生活環境、生存環境」 / aikanaan「やがて、いずれ」[様]+ 単<sub>3</sub>所接 <aika / vastuun ottamiseen「責任をとることへ」(ottamiseen[入]<ottaminen 動名 <ottaa) / käsi-työ-pajoissa「手工芸の作業場で、手工芸のワークショップで」[複内]<-paja / työskentely「働くこと、作業すること」<työskennellä / käytännön「実践の、現実の、実際の」[属]<käytäntö <käyttää / asennekasvatus「価値判断教育」(直訳すれば「姿勢教育、態度教育」とでもなると思いますが、物事にど

のように向き合うべきかという問題に関する教育のようですので、思い切って「価値判断教育」と訳しておきます。場合によっては「哲学教育」といってもよいのかもしれませんが。）／elin-kaari-ajattelu 「(製品)ライフサイクル思考」(「製品ライフサイクル」とは、大雑把に言えば、ある製品が計画・製造され、市場に出回り、購入・使用され、そして最終的に使用されなくなるまでのサイクルのことだと思います)／arvo-maa-ilma 「価値体系」／rakentajana 「建設者として、構築者として」[様] < rakentaja < rakentaa / käyttöönsä 「自らの利用へ」[入]+ 単 3 所接 < käyttö < käyttää / vastuullisesti 「責任をもって」[副] < vastuullinen < vastuu < vastata / uusiutuvista luonnon-varoista valmistettuja raaka-aineita 「再生可能な自然資源から生産された原材料を」(uusiutuvista 「再生するような、再生可能な」[複出] < uusiutuva 能現分 < uusiutua < uusi、luonnon-varoista 「自然資源から」[複出] < -vara、valmistettuja 「生産されたような」[複分] < valmistettu 受過分 < valmistaa) / hyvin suunniteltuja 「うまく計画されたような、うまくデザインされたような」(suunniteltuja [複分] < suunniteltu 受過分 < suunnitella) / laadukkaita 「質の高い」[複分] < laadukas < laatu / kierrättää 「リサイクルする」 < kiertää / purkaa 「分解する、解体する」 / hävittää 「処分する、廃棄する」 / saastuttamatta 「汚染させずに、汚さずに」MA 不[欠] < saastuttaa < saastua

### ●フィンランド語理解のための訳例

手工芸を作ることを通じて|可能になる|物質的な生活環境の理解が、|それは導く|やがて|責任をもつことへ。手工芸のワークショップで作業することは|実際の価値判断教育である|[持続可能な製品ライフサイクルの考え方と価値体系の|建設者として]。生態的持続可能性の視点から|手工芸者は選ぶことができる|自らの利用へ|責任をもって、|[近くで、|再生可能な自然資源から|作られた|原材料を]。我々は作ることができる|[よく計画された、|質の高い|そして持続可能な製品を]、|それらは|後にできる|リサイクルする、|分解する|あるいは処分する|環境を汚染させずに。

### ◎意訳

手工芸を作ることにより物質的な生活環境というものを理解することが可能になり、その理解はやがて自らが責任をもつということに生徒たちを導くことになる。手工芸のワークショップで作業することは、持続可能な製品ライフサイクルの考え方や価値体系を身につけさせるための実践的な価値判断教育だといえる。生態的な持続可能性という観点から、手工芸に取り組む者は地元で、再生可能な自然資源から作られた原材料を責任をもって利用するだろう。我々は、よく考えられた質の高い、そして持続可能な製品を作ることができるし、そのような製品は後になって環境を汚染することなくリサイクルし、あるいは解体・廃棄することができるはずだ。

【39】「自給自足」「地産地消」は自立をもたらす

Käsikäyttöiset työkalut kuluttavat hyvin vähän uusiutumattomia luonnonvaroja ja haitalliset päästöt pysyvät kurissa. Taitava voi itse vähin työkaluin valmistaa tai korjata tuotteita tai valita lähellä tuotetun tuotteen. Paikallisesta tuotteesta on helppo selvittää, miten eettisesti ja ekologisesti se on tuotettu. Omavaraisuus tuo meille niin yksilön kuin kansakunnan tasolla riippumattomuutta.

### ■ 語句・文法

käsi-käyttöinen「手動の」／työ-kali「道具」／uusiutumattomia「再生しないような、再生不可能な」  
[複分] < uusiutumaton 否分 < uusiutua／haitallinen「有害な」< haitta／pysyä kurissa「抑制される、規律の中にある」／taitava「熟練した(人)、上手な(人)」能現分 < taitaa／vähin työ-kaluin「少ない道具で」[複具] < vähä työ-kalu／lähellä tuotetun tuotteen「近くで製造された製品を」(tuotetun[属対] < tuotettu 受過分 < tuottaa)／selvittää「明らかにする」／on tuotettu「生産されている、製造されている」受完 < tuottaa／oma-varaisuus「自給自足、地産地消」< -varainen／kansa-kunta「ネーション、国家」／riippumattomuutta「自立を」[分] < riippumattomuus < riippumaton 否分 < riippua

### ● フィンランド語理解のための訳例

手動の道具は消費する|とても少なく|再生不可能な自然資源を|そして有害な排出は抑制される。熟練した人はできる|自分自身で|少ない道具で|作る|あるいは修理する|製品を|あるいは選ぶ|近くで生産された製品を。地元の製品については容易である|明らかにすることが、|どのように倫理的に、そして環境に配慮して|それは生産されているのか。自給自足・地産地消はもたらす|我々に|[個人の|同様に国家の|レベルにおいて]|自立を。

### ◎ 意訳

手動の道具を利用すれば再生不可能な自然資源を消費することが非常に少なくなり、また有害な排出物を生み出すことも抑制される。熟練した人間は少ない道具で自らモノを作り、また修理するし、あるいは地元で作られた製品を選ぶだろう。地元の製品であれば、それがいかに倫理的に、そして環境に配慮して生産されているのかを明らかにすることは容易だからである。自給自足・地産地消は個人のレベルだけではなく国家のレベルにおいても、我々に自立した生活をもたらしてくれる。

### ★ 補足

ここまでで見てきたように、持続可能な発展を可能にする消費や選択のためには、地域に根づいた生活をめざすことが重要です。それをどのように実践すべきなのかという難しい問題については、十分ではありませんが、テーマIVで扱う予定です。ここでは、根本的な問題、つまり人間の幸福をどのように考えるべきかという問題に移っていくことにします。

#### 【40】人間は日常に意味や目的を求めるものだ

Useissa kulttuureissa materiaallinen vauraus on kuitenkin jo kääntymässä ihmisten hyvinvointia vastaan, sillä osallisuuden, itsekunnioituksen, rakkauden ja ilon tyydyttäminen materiaalilla on mahdotonta (Meadows ym., 2004). Hyvinvointi on luonteeltaan perustarpeiden tyydyttymisen jälkeen henkistä, jolloin materiaalisten asioiden merkitys vähenee (Salonen ja Åhlberg, 2013). Tämän vuoksi Suomen kaltaisissa hyvinvointiyhteiskunnissa korostuu kansalaisten subjektiivisen hyvinvoinnin ymmärtäminen. Ihmiset etsivät merkitystä ja tarkoitusta arkeensa.

#### ■ 語句・文法

materiaallinen「物質的な」/vauraus「豊かさ」/kääntymässä「向かいつつ(ある)」MA 不[内]< kääntyä < kääntää /hyvin-vointia vastaan「幸福に対して、幸福に反対して、幸福に対抗して」(hyvin-vointi は「福祉、厚生、幸福」などさまざまな日本語に対応しますが、ここでは「幸福」としておきます) /osallisuus「参加すること、関与すること」< osallinen < osa /itse-kunnioitus「自尊(心)」 /tyydyttäminen「満足させること」動名 < tyydyttää < tyytyä /materiaalla「物により」< materia /luonteeltaan「その性質からすれば」[奪]+ 単 3 所接 < luonne /perus-tarpeiden「基本的な必要性の」[複属]< -tarve /vähenee「減る」現単 3 < vähetä /kaltaisissa「～のような」[複内]< kaltainen /subjektiivisen「主観的な」[属]< subjektiivinen /arkeensa「自らの日常へ」[入]< 複 3 所接 < arki

#### ● フィンランド語理解のための訳例

多くの文化において|物質的な豊かさは|しかしながら|向かいつつある|人間の幸福に対立して、|というのも参加すること、自尊心、愛、そして喜びを満足させることは|物によって|不可能だから (Meadows ほか、2004 年)。幸福とは|その性質からすると|基本的な必要性を満足させることの後では|精神的なものだ、|そのとき|物質的な物事の意味は減る (Salonen & Åhlberg, 2013 年)。このため|フィンランドのような福祉社会においては|強調される|市民たちの主観的な|幸福の理解が。人々は探す|意味と目的を|自らの日常へ。

#### ◎ 意訳

しかし多くの文化において、物質的な豊かさはすでに人間の幸福に逆行するものとなってしまっている。なぜなら、社会参加、自尊心、愛情、そして喜びの感情といったものは、物によって満足させることは不可能だからである (Meadows ほか、2004 年)。基本的な必要性というものが満たされていれば、幸福というものは精神的なものであり、そうであれば物質的な物事がもつ意味というものは減少していく (Salonen & Åhlberg, 2013 年)。このため、フィンランドのような福祉国家においては、幸福についての人々の主観的な理解というものが重要視されることになる。人間というものは自らの日常に意味や目的を求めるものだからである。

#### ☆ 引用文献の中の文献注

【40】の中にある文献注で示されているのは次のものです。

Meadows, D., Meadows D. L., & Randers J. (2004). Kasvun rajat — 30 vuotta myöhemmin. Suom. Kati Pitkänen. Alkuperäisen teoksen nimi Limits to Growth. The 30-Year Update Revised Edition. Helsinki: Gaudeamus.

Salonen, A. & Åhlberg, M. (2013). Towards sustainable society - From materialism to post-materialism (in Press). International Journal of Sustainable Society 5(4).

【41】もはや物質的豊かさで幸福を考えるべきではない

Pelkkä materiaalinen taulutelevision koon kasvattaminen ei enää riitä pitämään heitä tyytyväisinä. Tämä haastaa myös politiikan tarkastelemaan hyvinvointia laajalaisemmin kuin pelkästään vaurauteen liittyvänä kysymyksenä. Materiaalisen vaurauden tavoittelun kohtuullistuessa myös hyvinvoinnin tavoittelun ekologinen jalanjälki pienenee ja ihmisten välisen eriarvoisuuden on mahdollista vähentyä.

#### ■ 語句・文法

taulu-televisio「薄型テレビ」/koon「大きさの」[属]<koko/kasvattaminen「成長させること、大きくさせること」動名<kasvattaa<kasvaa/pitämään heitä tyytyväisinä「彼らを満足させておくのに」(pitämään MA 不[入]<pitää「保つ」、tyytyväisinä[複様]<tyytyväinen<tyytyä)/haastaa politiikan tarkastelemaan「政治に考えるよう挑む、政治に精査するよう要求する」/laajalaisemmin「より広く、より広範に」[副]比<-alainen/pelkästään「単に」/vaurauteen liittyvänä kysymyksenä「富裕さに結びつくような問題として」(vaurauteen[入]<vauraus, liittyvänä[様]<liittyvä 能現分<liittyä)/tavoittelu「めざすこと」<tavoitella<tavoittaa<tavata/kohtuullistuessa「妥当なものになるときに、適度なものになるときに、ほどほどのものになるときに」e 不[内][時構]<kohtuullistua<kohtuullistaa<kohtuullinen<kohtuu/jalan-jälki「フットプリント、足跡、人間の活動が環境に及ぼす有害な影響」(この語については『フィンランド語の世界を読む』27 課のテキスト5と6を参照してください)/pienenee「小さくなる」現単3<pienetä<pieni/eri-arvoisuuden「不平等にとって」[属]<-arvoisuus<-arvoinen<arvo/vähentyä「減る、少なくなる」

#### ● フィンランド語理解のための訳例

単なる|物質的な|薄型テレビのサイズを|大きくすることは|もはや十分ではない|彼らを満足させておくには。これは挑発する|また政治を|調べるように|幸福を|より広範に|単に富裕さに結びつく問題としてよりも。物質的な富裕さをめざすことが|適度なものになるとき|また幸福をめざすことの生態的なフットプリントも小さくなる|そして人間の間の不平等にとって|可能である|減ることが。

#### ◎ 意訳

単に薄型テレビのサイズを大きくするといった物質的な変化は、もはや人を満足させるには十分ではない。このことは、単に裕福であるかどうかということに結びつく問題としてだけではなく、より広範な意味において幸福というものについて考えることを政治に要求することになる。物質的な豊かさをめざすことが妥当なものへと変化すれば、幸福を求めることによって生み出される生態的なフット

プリント、つまり人間が環境に及ぼす否定的な影響も小さくなり、そして人間の間での不平等が減少することも可能になるだろう。

### ★補足

物質的な豊かさを無制限に求めるような現在の人間の在り方が、実際に幸福感や満足感をもたらしているのかおおいに疑問だと思います。適度な物質的豊かさに満足することを学ぶことで、自然への過度な負担を減らし、また人間どうしの不平等も減少させることができるのかもしれませんが。

【42】これまでの発展の方向性を疑う必要がある

Jaamme rajallisen maapallon yhä useamman ihmisen kesken. Tietoisuutemme lisääntyessä maapallon rajallisuudesta olemme havahtumassa siihen, että elämän ohjenuorana ”mitä enemmän, sen parempi” on kuin päästä tikkaiden ylimmälle puolalle ja huomata, että ne nojaavat väärää seinää vasten. Vallalla olleen kehityksen suuntaa voi kyseenalaistaa esimerkiksi ihmisten tyytyväisyyttä arvioimalla.

### ■ 語句・文法

jaamme「我々は分ける」現複 1 < jakaa / rajallinen「有限の」< raja / useamman ihmisen kesken「より多くの人間の間で」(useamman [属] < useampi 比 < usea) / tietoisuutemme「我々の認識が」[属] + 複 1 所接 < tietoisuus < tietoinen < tieto < tietää / lisääntyessä「増えるときに」e 不 [内] [時構] < lisääntyä < lisätä < lisää / rajallisuudesta「有限であることについて」[出] < rajallisuus < rajallinen < raja / havahtumassa siihen, että ... 「…であることに目覚めつつ(ある)、…であることに気づきつつ(ある)」(havahtumassa MA 不 [内] < havahtua, siihen [入] < se) / ohje-nuora「指針、ガイドライン」 / mitä enemmän, sitä parempi「多ければ多いほど、それだけよい」 / tikkaiden「ハシゴの」[属] < tikkaat [複主] < tikas / ylimmälle「もっとも上の」[向] < ylin / puola「(ハシゴの)段」 / nojata「もたれかかる、寄りかかる」 / vasten「～に対して」 / vallalla olleen「支配的であったような」(vallalla [接] < valta, olleen [属] < ollut 能過分 < olla) / kyseenalaistaa「疑う、問う、異議を唱える」< -alainen / arvioimalla「評価することにより」MA 不 [接] < arvioida

### ● フィンランド語理解のための訳例

我々は分けている | 有限な地球を | さらに多くの人間の間で。我々の認識が増えるとき | 地球の有限さについて | 我々は気づきつつある | 次のことに | 人生の指針として | 「多ければ多いほどよい」は | ハシゴのもっとも上の段に上るようなものだ | そして気づくようなものだ | それがもたれかかっていることに | まちがった壁に。支配的だった発展の方向を | 問うことができる | たとえば | 人間の満足を評価することにより。

### ◎ 意訳

我々は有限である地球をますます多くの人間で分け合っている。地球が有限であることについて我々の認識が高まっている。その中で、「多ければ多いほど、それだけよいのだ」という人生の指針

が意味するのは、ハシゴの一番上の段に上ったときに、実はハシゴがまちがった壁にもたれかかっていることにハッとするようなものだということが我々は気づきつつある。たとえば人々の満足度を評価することにより、これまで支配的であった発展の方向性というものが正しいのかどうか問うてみるることができるだろう。

### ★補足

「我々は気づきつつある」と書かれていますが、本当にそうなのか私自身は疑問をもっていますが。

### 【43】人間は成長の目的ではなく手段に過ぎない

Pitkän aikavälin kestävyys on uhattuna jos hyvinvointikäsitksemme edellyttää tavaravaurauden jatkuvaa kasvattamista. Jatkuvan kasvun pakonomaisessa tavoittelussa haasteeksi muodostuu se, että luonnonvarat, ekosysteempipalvelut ja ihminen ovat loppujen lopuksi vain välineitä markkinoiden kasvulle.

### ■ 語句・文法

aika-väli「期間、タイムスパン」／uhattuna「脅かされた状態に」[様] < uhattu 受過分 < uhata < uhka／hyvin-vointi-käsityksemme「我々の幸福の理解が、我々の幸福の概念が」(käsityksemme [単主]+ 複<sub>1</sub>所接 < käsitys < käsittää／tavara-vaurauden「物の潤沢さの、物の豊富さの」[属] < -voraus／jatkuva「継続するような」能現分 < jatkaa < jatkaa／kasvattamista「成長させることを、大きくすることを」[分] < kasvattaminen 動名 < kasvattaa／pakon-omainen「強迫観念にとらわれたような」／haasteeksi「挑戦として、課題として」[変] < haaste < haastaa／muodostua「形を成す、現れる」／se, että ...「…だということが」／eko-systeemi-palvelu「生態系サービス」(資料Ⅲ-1の【3】の文章と、その後の「★補足」で簡単に解説してあります)／loppujen lopuksi「結局のところ」／markkinoiden「市場の」[複属] < markkina

### ● フィンランド語理解のための訳例

長い期間の持続可能性は|脅かされた状態にある|[もし我々の幸福概念が前提とすれば|物の潤沢さの|継続的な|成長を]。[継続的な成長を|強迫観念にとらわれたような|めざすことにおいて]|課題として現れる|<次の>[ことが|自然資源、生態系サービス、そして人間は|結局のところ|ただの道具である|市場の成長のための]。

### ◎ 意訳

もし我々の幸福という概念が物質的な豊かさがたえず大きくなっていくことを前提とするのであれば、長期的な持続可能性というものは脅かされることになる。強迫観念にとらわれたかのように継続的な成長を追い求める中では、自然資源や生態系サービス、そして人間も、結局のところ市場の成長のための道具に過ぎないということが問題として浮かび上がってくることになる。

## ★補足

「とにかく成長しなければならない」という強迫観念にとらわれた世界では、人間もその成長の手段でしかありません。そうであれば、成長がもたらすはずの利益は一体だれが手に入れているのでしょうか。そのような問題についても、すでに多くの書籍が出ていると思いますので、私も勉強を続けようと思っています。それでは、続けていきます。

### 【44】「足るを知る者は富む」ということの意味を真剣に考えるべきだ

Myös lyhyen aikavälin henkilökohtainen tyytyväisyys on koetteella, sillä elämän merkitykselliset hetket liittyvät ihmisiin eivätkä niinkään tavaroihin. Keskeistä on oppia tunnistamaan minkä verran materiaalista hyvää on riittävästi. Aasialaisen viisauden mukaan silloin on rikas kun tietää minkä verran riittää.

## ■語句・文法

henkilö-kohtainen「個人的な」／koetteella「試練に立たされて、試されて」[接]＜koete＜koettaa／merkityksellinen「有意義な、意味のある」＜merkitys／niin-kään「それほど（～ない）」／oppia tunnistamaan「認識できるようになる」(tunnistamaan MA 不[入]＜tunnistaa)／minkä verran「どの程度(の)」／viisaus「知恵」＜viisas／silloin on rikas kun tietää minkä verran riittää.は「どの程度が十分なのか知るとき、〈人は〉豊かである」という意味だと思います。本来であれば、silloin kun ~で「～のときに」という意味ですが、この文のように silloin を前に出すことがあります。

## ●フィンランド語理解のための訳例

また短期的な|個人的な満足は|試されている、|というのも人生の有意義な瞬間は結びつく|人間に|〈次のこと〉[ではなく|それほど|品物に]。中心的である|認識できるようになることが|どの程度の物質的よさが|ある|十分に。アジアの知恵によれば|〈次のときに〉[豊かである|知っている〈ときに〉|どの程度|十分である]。

## ◎意訳

また個人の短期的な満足度も試されることになる。なぜなら意味のある人生の瞬間というものは品物ではなく人間に結びついているものだからである。非常に重要なことは、どの程度の物質的な豊かさがあれば十分なのかを認識できるようになることである。アジアの知恵によれば、「足るを知る者は富む」のである。

## ★補足

ここで「アジアの知恵」というものが出てきましたが、おそらく代表的なものが『老子』の中に出てくる「足るを知る者は富む」という言葉だと思います。「アジア」とひとくくりになっている点には少し違和感を抱いてはいますが、少なくとも多様な文化について学ぶことの重要性は【44】から読み取りたいと思います。そして、フィンランドの基礎教育においては、そのような文化の多様性に目を向けることが重要視されています。

【45】基礎教育では「文化」とその多様性が重視されている

Perusopetus rakentuu moninaiselle suomalaiselle kulttuuriperinnölle. Se on muodostunut ja muotoutuu eri kulttuureiden vuorovaikutuksessa. Opetus tukee oppilaiden oman kulttuuri-identiteetin rakentumista ja kasvua aktiivisiksi toimijoiksi omassa kulttuurissaan ja yhteisössään sekä kiinnostusta muita kulttuureita kohtaan. Samalla opetus vahvistaa luovuutta ja kulttuurisen moninaisuuden kunnioitusta, edistää vuorovaikutusta kulttuurien sisällä ja niiden välillä ja luo siten pohjaa kulttuurisesti kestäväälle kehitykselle.

#### ■ 語句・文法

perus-opetus「基礎教育」(フィンランドでは日本の小学校と中学校に相当する 9 年制の学校を perus-koulu と呼んでおり、その段階の教育が perus-opetus) / rakentua「築かれる」< rakentaa / moninainen「多様な」 / muodostua「形を成す、生まれる」< muoto / muotoutua「形を成す、具体化する」< muoto / rakentumista「築かれることを」[分]< rakentuminen 動名 < rakentua < rakentaa / aktiivisiksi toimijoiksi「積極な行動者へ」[複変]< aktiivinen toimija / kiinnostusta「関心を」[分]< kiinnostus < kiinnostaa / luovuutta「創造性を」[分]< luovuus < luova 能現分 < luoda / kunnioitusta「尊重を、敬意を」[分]< kunnioitus < kunnioittaa < kunnia

#### ● フィンランド語理解のための訳例

基礎教育は築かれる | 多様なフィンランドの文化遺産の上に。それは生まれてきた | そして形成される | 異なる文化の相互作用の中で。教育は支援する | [生徒たち自身の | 文化的アイデンティティが | 築かれることを] | そして、[成長を | 積極的な行動者への | 自らの文化において | そして共同体において] | そして [関心を | 他の文化へ向けての]。同時に教育は [強化する | 創造性を | そして文化的多様性に対する敬意を、] | [促進する | 交流を | 文化内部における | そして、それらの間における] | そして、[創り出す | そのようにして | 基盤を | 文化的に持続可能な発展への]。

#### ◎ 意識

基礎教育はフィンランドの多様な文化遺産の上に成り立っている。それはさまざまな文化の間の相互作用の中で生まれたものであり、また形成されていくものである。教育は生徒自身の文化的アイデンティティを支援し、自らの文化と共同体において積極的に行動する者へと成長することを支え、そして他の文化に関心をもつよう促すのである。同時に基礎教育は創造性を、そして文化の多様性に敬意を払う姿勢を強化し、文化の内部における、あるいは文化と文化の間における交流を促進し、そうすることにより結果的に文化的に持続可能な発展のための土台を作り出すのである。

#### ★ 補足

文化の多様性に敬意を払うということは、そのまま社会的な公正をもたらすことにつながるはずで、そのような社会的公正を築き上げることも持続可能な発展の重要な課題の一つでした。

【46】未来へ向けての「公正」は民主主義の中核をなす問題である

Sosiaalisten huolien keskiössä on kysymys oikeudenmukaisuudesta eli pohjimmiltaan siitä, kuinka kehityksestä seuraavat hyödyt ja haitat voitaisiin jakaa paikallisesti ja kansainvälisesti oikeudenmukaisesti, sillä maailmankansalaisilla on yhteinen ilmakehä, yhteiset elämää kannattelevat ekosysteemipalvelut ja yhteiset luonnonvarat. Päivittäisten valintojemme vaikutukset ovat kauaskantoisia halusimme tai emme. Sosiaaliin huoliin kuuluu myös sukupolvien välisen tasavertaisuuden toteutuminen ja kansalaisten osallisuuteen ja vaikutusmahdollisuuksiin liittyvät kysymykset, jotka muodostavat demokratian ytimen.

### ■ 語句・文法

keskiö「中心、中核」< keski- / oikeuden-mukaisuudesta「公正について」[出]< mukaisuus < -mukainen / pohjimmiltaan「根本的には」[複奪]+ 単 3 所接 < pohjin 最 < pohja (= pohjimmaltaan) / siitä, kuinka ...「いかに…なのかにについて」(siitä [出]< se) / kehityksestä seuraavat hyödyt ja haitat「発展から生じる利益と不利益を」(seuraavat「続くような」[複主対]< seuraava 能現分 < seurata) / voitaisiin「できるのだろう」[条]受現 < voida / oikeuden-mukaisesti「公正に」[副] | < -mukainen / maa-ilman-kansalainen「世界市民」(「世界市民」とは狭い視野にとどまらず、世界全体のことを考えられるような人間をさすのだと思いますが、ここでは単に現在のような世界に生きている人間をさしているのかもしれませんが) / ilma-kehä「大気圏」 / elämää kannattelevat eko-systeemi-palvelut「生命を支えるような生態系サービス」(kannattelevat [複主]< kannatteleva 能現分 < kannatella < kannattaa) / kauas-kantoinen「遠く将来に及ぶような、長期的な」 / halusimme tai emme「我々が望もうと望むまいと」 / tasa-vertaisuus「同等性、平等性」 / toteutuminen「実現すること」動名 < toteutua < toteuttaa < tosi / osallisuuteen ja vaikutus-mahdollisuuksiin liittyvät kysymykset「参加することと影響を与える可能性に結びつくような問題」(liittyvät [複主]< liittyvä 能現分 < liittyä) / ytimen「核を」[属対]< ydin

### ● フィンランド語理解のための訳例

社会的な心配事の中核にある|問題が|公正についての|言い換えれば|根本的には|<次のことに> [ついでに|どのように発展に続く利益と不利益を|できるのだろう|分けることが|地域的に|そして国際的に|公正に]、というのも世界市民にはあるから|共通の大気圏が、|共通の|生命を支えるような生態系サービスが|そして共通の自然資源が。日々の|我々の選択の|影響は遠く未来へ及ぶものだ|我々が望もうと望むまいと。社会的な心配事に属している|また世代の間の公平性を実現することが|そして|市民が参加することと影響を与える可能性に結びつくような問題が、|それらは形成する|民主主義の中核を。

### ◎ 意識

社会的な関心を集める事柄の中核にあるのは公正に関する問題である。つまり、発展というもの

が生み出す利益と不利益をそれぞれの地域において、あるいは国際的に、いかに公正に分け合うことができるのだろうかということが根本的な問題となっているのである。なぜなら、世界市民たちは大気圏を、生命を維持させるための生態系サービスを、そして自然資源を共有しているからである。我々の日々の選択の影響は、我々が望もうと望まないと、長期に及ぶものである。そのため、世代間の公平性の実現という課題や、市民が社会参加し影響を与えられる可能性に関する問題など、民主主義の中核をなす事柄もまた社会的な関心を集めている。

### ★補足

多様性を尊重することは社会的公正を実現することに結びつきますが、それは何も共時的に、つまり同時代における横への広がりだけを意味するわけではありません。「世代間の公平」という表現が出てきましたが、我々の世代の行為が次の世代に社会的な不公正をもたらすことは許されないはずで（しかし、実際にはそのような未来が予想されています）。つまり、通時的な広がり、過去と現在と未来のつながり、言い換えれば「歴史」というものに目を向けることが非常に重要になる気がします。未来に不公正をもたらさないためには現在を見つめる必要がありますし、その現在を理解するためには過去へ目を向けることが不可欠なはずで。それでは「教育課程の基準」における教科目 historia「歴史」や yhteis-kunta-oppi「社会科」の目的から見ていきます。

### 【47】「教育課程の基準」：「歴史」や「社会科」における持続可能な発展に関する学習の目標

Oppija ymmärtää kulttuureiden olevan historiallisen kehitysprosessin tulosta. Historian opetuksella tuetaan oppijan identiteetin rakentumista. Oppija ymmärtää maailmanperinnön merkityksen. Oppija hahmottaa itsensä osana historiallista jatkumoa.

### ■ 語句・文法

ymmärtää kulttuureiden olevan「文化が～であることを理解する」〔分構〕(olevan〔属〕<oleva 能現分 < olla) / tuetaan「支援される」受現 < tukea / rakentumista「建てられることを、構築されることを」〔分〕<rakentuminen 動名 < rakentua < rakentaa / hahmottaa itsensä osana historiallista jatkumoa「自分自身を歴史的連続体の一部だと理解する」(itsensä〔属対〕+ 単3所接 <itse, osa「一部」(+〔分〕)、jatkumo「連続、連続体、つながり」< jatkua

### ● フィンランド語理解のための訳例

学習者は理解する|文化が[～であることを|歴史的な|発展過程の|結果]。歴史の授業により|支援する|[生徒たちのアイデンティティの|構築されることを]。学習者は理解する|世界遺産の|意味を。学習者は理解する|自分自身を|[一部として|歴史的連続体の]。

### ◎ 意訳

学習者は、文化というものが歴史的発展の過程が生み出す結果であることを理解するようになる。歴史教育は、学習者のアイデンティティの構築を支援するものである。学習者は世界遺産の意義を理解するようになる。そして学習者は、自分自身が歴史という連続体の一部であることを認識するよ

うになる。

### ★補足

「自分自身が歴史という連続体の一部であることを認識する」ということが非常に重要だということが、次の【48】以降の文章を読むとよくわかると思います。

【48】「歴史」は過去に関する単なる知識の集まりではない

Historiatietoisuus on noussut maailmalla viime vuosikymmeninä kasvavan kiinnostuksen kohteeksi. Taustalla on oivallus siitä, että historia on muutakin kuin tietoa menneestä. Niin sanotun Frankfurtin koulukunnan piirissä kehiteltiin jo 1970-luvulla ajatusta siitä, että historia on pohjimmiltaan yhteiskuntatiede. Näkemystä perusteltiin sillä, että koska erilaiset nykypäivässä esiintyvät yhteiskunnalliset instituutiot, käsitykset ja konfliktit ovat rakentuneet historiallisesti, niitä on mahdotonta ymmärtää ilman menneisyyden avaamaa perspektiiviä.

### ■語句・文法

historia-tietoisuus「歴史認識」(この用語の意味については、次の【49】を参照) / viime vuosikymmeninä「過去数十年の間に」(vuosi-kymmeninä [複様] < -kymmen) / kasvavan kiinnostuksen kohteeksi「大きくなる関心の対象へと」(kasvava「成長するような、大きくなるような」能現分 < kasvaa, kohteeksi [変] < kohde) / oivallus siitä, että ... 「…ということについての認識、…ということに関する理解」(oivallus < oivaltaa, siitä [出] < se) / muutakin kuin ... 「…以外のものでも」 / menneestä「過ぎ去ったことについて、過去について」[出] < mennyt 能過分 < mennä / Frankfurtin koulu-kunta「フランクフルト学派」(1923年にドイツのフランクフルトに設立された社会研究所で活躍した研究者や思想家たち) / kehiteltiin「発展させられた」受過 < kehitellä < kehittää / ajatusta siitä, että ... 「…ということについての考え方を」 / yhteis-kunta-tiede「社会科学」 / perusteltiin「根拠づけられた、正当化された」受過 < perustella < perustaa / sillä, että ... 「…であるということにより」(sillä [接] < se) / eri-laiset nyky-päivässä esiintyvät「さまざまな、今日において現れているような」(esiintyvät [複主] < esiintyä 能現分 < esiintyä) / instituutio「制度、組織」 / käsitys「理解、観念、概念」 / konflikti「対立、紛争」 / menneisyyden avaamaa perspektiiviä「過去が開くような視点」(menneisyyden [属] < menneisyys < mennyt 能過分 < mennä, avaamaa [分] < avata 動分 < avata)

### ●フィンランド語理解のための訳例

「歴史認識」は上がった | 世界において | 過去数十年の間に | 大きくなる関心の対象へと。背景にある | < 次のような > [ことについての認識が、 | 歴史は過ぎ去ったことについての知識以外のものでもある]。いわゆるフランクフルト学派の輪の中で | 発展させられた | すでに 1970年代に | < 次のような > [ことについての考えが | 歴史は根本的には社会科学である]。 < このような > 見方は正当化された | < 次のような > ことにより | [なぜなら | さまざまな | 現在において現れているような | 社会的な制度、

観念、そして対立は|構築されてきたから|歴史的に]、|[それらを不可能だ|理解することは|~なしで|過去の開く視点]。

### ◎意識

「歴史認識」というものは過去数十年の間に、世界において大きな関心の的となってきた。その背景には、歴史は過去に関する単なる知識以外のものでもあるという認識が存在する。いわゆる法兰克福学派の中ではすでに 1970 年代に、歴史は根本的には社会科学であるという考え方が構築されていった。現在において現れるさまざまな社会的制度や観念、そして対立というものは歴史的に構築されてきたものである。そうであれば、過去が我々に示してくれる視点というものなしにそれらを理解することは不可能である。このような理由により、前述のような考え方は正当化されたのである。

### ★補足

「歴史学」が社会科学だということに異論はありません。あるいは、私が興味をもつ「言語学」なども、多くの研究者によれば社会科学です。なぜなら言語は社会の存在を前提とし、逆に社会も言語の存在を前提とするからです。つまり言語の研究なくして社会の研究はありえませんし、その逆も同じです。さらに言語や社会を研究することは、究極的には「人間」について研究することです（ついでにいえば、「言語学」は人間が生得的に備えている言語能力について研究するので、生物学／自然科学の一部だという研究者たちもいますが、そうであれば、なおさら言語学は「人間」について研究する学問です）。

話を戻します。「歴史学」が社会科学だということに異論はありません。ただ、それ以前に人文科学と社会科学を当然のように区別しようとする態度にこそ大きな疑問を感じます。なぜなら社会を研究することは、それを構成する人間について研究することですし、人間について考えることは必然的に人間の属する社会について考えることを要求するからです。ですから、たとえば「文学研究」は人文科学だというより、それは人文科学でもあり社会科学でもあるのです（このことは上野千鶴子さんの有名な『上野千鶴子が文学を社会学する』を読むとよくわかります）。

大学の研究者の中にも「私は社会科学の専門なので人文科学のことはわかりません」とか「自分は文学が専門なので社会系のことは知りません」などと堂々という人たちがいますが、これは大きなまちがいでしょう。たしかに「自分の専門ではないので、よくわからない」ということを潔く認める姿勢はとても重要です（というより、よく知らないことについても専門家ぶった発言をする人があまりに多いことには辟易するくらいですが）。しかし、一方で社会科学と人文科学がまったく別のものだと思えることには何の利益もありません。人文系や社会系といった区別は、たとえば大学入試へ向けての学生指導を「効率化」するために存在していると考えべきだと思います。むしろ「人文系」や「社会系」と呼ばれるものが協力して「人間」について研究することで、どのような「未来」を構築すべきなのか考えるのが有益なことだと思います。そのためには、まさしく人文系でも社会系でもある「歴史学」の果たす役割は非常に大きいはずですよ。

【49】現在を過去と結びつけることで、さらに未来へと結びつけるのが「歴史」

Menneisyys muovaa käsitystämme nykyisyydestä, mutta avaa toisaalta odotuksia tulevasta. Historia ei siis ole pelkkää tietoa jo tapahtuneesta, vaan vaikuttaa tapaamme ajatella ja toimia tässä hetkessä. Tätä eri aikatasoja yhdistävää ajattelua kutsutaan historiatietoisuudeksi. Historiatietoisuuden käsite pohjautuu ihmisen kykyyn hahmottaa omaa todellisuuttaan ajassa liikkumalla. Se toimii siis eräänlaisena siltana menneisyyden, nykyisyyden ja erilaisten tulevaisuudenodotusten välillä. Menneisyys ja sen selittäminen vaikuttavat siihen, kuinka ymmärrämme nykyisyyttä. Tältä pohjalta rakennamme myös erilaisia tulevaisuudenodotuksia (van den Berg 2007, Ahonen 1998, 21—22).

#### ■ 語句・文法

muovata「形作る」/nykyisyydestä「現在について」[出]< nykyisyys < nykyinen / tulevasta「来るべきことについて、未来について」[出]< tuleva 能現分 < tulla / jo tapahtuneesta「すでに起こったことについて」(tapahtuneesta [出]< tapahtunut 能過分 < tapahtua) / tapaamme「我々の方法へ」[入]+ 複 1 所接 < tapa / tätä eri aika-tasoja yhdistävää ajattelua「この、さまざまな時間レベルを結びつけるような考え方を」(yhdistävää [分]< yhdistävä 能現分 < yhdistää) / kutustaan historia-tietoisuudeksi「歴史認識と呼ばれる」/ pohjautua「もとづく」/ todellisuuttaan「自らの現実を」[分]+ 単 3 所接 < todellisuus / ajassa liikkumalla「時間の中を動くことにより」(liikkumalla MA 不 [接]< liikkua) / erään-laisena siltana「ある種の橋として」[様]< erään-lainen silta / tulevaisuuden-odotusten「未来についての予想の、未来についての期待の」(tulevaisuuden [属]< tulevaisuus < tuleva 能現分 < tulla、odotusten [複属]< odotus < odottaa) / selittäminen「説明すること」動名 < selittää / siihen, että ... 「…だということへ」(siihen [入]< se) / tältä pohjalta「この土台から、これにもとづいて」[奪]< tämä pohja

#### ● フィンランド語理解のための訳例

過去は形作る | [我々の理解を | 現在について]、| しかし開く | 一方で | [予想を | 来るべきものについて]。歴史はつまり [~ではない | 単なる知識 | すでに起こったことについての]、| <そうではなく> 影響を与える | [我々の方法へ | 考えるための | そして行動するための | この瞬間において]。この | さまざまな時間レベルを | 結びつけるような考え方 | 呼ばれる | 歴史認識と。歴史認識の概念はもとづく | [人間の能力へ | 理解するための | 自らの現実を | 時間の中を動くことにより]。それは機能する | つまり | ある種の橋として | 過去の、 | 現在の | そしてさまざまな | 未来についての予想の間で。過去と | それを説明することは | 影響を与える | <次の> [ことへ、 | いかに我々は理解するのか | 現在を]。この土台から | 我々は構築する | また | さまざまな未来の予想を (van den Berg 2007 年, Ahonen 1998 年, 21-22)。

#### ◎ 意訳

「過去」というものは我々が「現在」というものをどのように理解するのかを決定するが、一方で、「未来」がどのようなものであるのか予想することを可能にしてくれるのもまた過去である。つまり、

歴史というものはすでに起こったことに関する単なる知識ではなく、この瞬間に我々が考え行動する方法に影響を与えているものこそ歴史なのである。このような、異なる時間レベルを結びつけるような思考を歴史認識と呼ぶのである。その歴史認識という概念は、時間の中を移動することで自らの現実を理解しようとする人間の能力にもとづいているのである。つまり、歴史認識とは過去と現在、そして予想されるさまざまな未来との間を橋渡しするものとして機能するのである。過去と、その過去に関する説明は、現在というものを我々がどのように理解するのかということに影響を与えている。そして、このことにもとづいて、我々はまた未来についてさまざまな予想図を構築するのである。

#### ☆引用文献の中の文献注

【49】の中にある文献注で示されているのは次のものです。

Berg van den, Marko 2007. Yksi historia monimutkaistuvassa maailmassa: Historian olemus ja historian suuret kertomukset luokanopettajaopiskelijoiden historiatietoisuudessa. Helsinki: Historiallis-yhteiskuntatiedollisen kasvatuksen tutkimus- ja kehittämiskeskus

Ahonen, Sirkka 1998. Historiaton sukupolvi? Historian vastaanotto ja historiallisen identiteetin rakentuminen 1990-luvun nuorison keskuudessa. Helsinki: Suomen Historiallinen Seura

【50】「批判的思考力」が「歴史認識」の本質的部分を成す

Sen sijaan historianopetus voisi tulevaisuudessa painottua entistä enemmän kriittisen ajattelun taitojen opettamiseen. Ne ovat myös olennainen osa historiatietoisuutta. Erilaisten väitteiden evidenssipohjaa punnitsemaan kykenevä kansalainen osaa kyseenalaistaa yksisilmäisiä menneisyystulkintoja, joita voidaan käyttää esimerkiksi nykypäivän poliittisten tavoitteiden ajamiseen.

#### ■語句・文法

sen sijaan「それに代わって、それに対して」(ここでの「それ」とは、これまでの歴史教育においては何らかの「正しい歴史解釈」を身につけることを目的としていたということを示しています) / painottua「重点を置く、集中する」(+ [入]) < painottaa < paino / entistä enemmän「以前よりも多く、今まで以上に」 / kriittinen「批判的な」 / taitojen「技能の」 [複属] < taito < taitaa / opettamiseen「教えることへ」 [入] < opettaminen 動名 < opettaa / väitteiden「主張の」 [複属] < väite < väittää / evidenssi-pohja「根拠」(evidenssi「証拠」+ pohja「基盤、土台」) / punnitsemaan kykenevä「量ることのできるような、評価することのできるような」(punnitsemaan MA 不 [入] < punnita, kykenevä「できるような」能現分 < kyetä + [入] ~ MA 不 [入]) / kyseenalaistaa「疑う、問う、異議を唱える」 / yksi-silmäisiä「一方的な、偏った」 [複分] < -silmäinen < silmä / tulkintoja「解釈を」 [複分] < tulkinta < tulkita / tavoitteiden ajamiseen「目的を追求することへ」(tavoitteiden [複属] < tavoite < tavoittaa, ajamiseen [入] < ajaminen 動名 < ajaa)

#### ●フィンランド語理解のための訳例

それに対して | 歴史教育はできるだろう | 将来において | 重点を置くことが | 以前よりも多く | 批判的な思考の技能を | 教えることへ。それらはまた | 本質的な部分である | 歴史認識の。さまざまな主張の

根拠を|量ることのできるような|市民は|できる|異議を唱えることが|一方的な過去の解釈に、|それらを利用できる|たとえば|現在の政治的目的を|追求することへ。

### ◎意訳

正しいとされる歴史解釈というものを身につけさせる代わりに、将来における歴史教育は批判的思考力を身につけさせることに今まで以上に重点を置くことができるのではないか。そのような批判的思考力というものはまた、歴史認識の本質的部分を成すものでもある。さまざまな主張の根拠をしっかりと評価できる市民は、たとえば現在における政治的目標を追求するために利用される可能性があるような過去に関する一方的な解釈というものに対して異議を唱えることができるだろう。

### ★補足

【50】の最後に出てきたように、過去に関する一方的な解釈を現在における政治的目標を追求するために利用するという事は、我々がしばしば目にしていることではないかと思えます。そのようなことに立ち向かうためには、我々自身がしっかりと「歴史認識」を身につけるしかない気がします。

【51】歴史を学ぶことは自由になること、そして未来を築くことだった!!

Kun historiatietoisuuden käsité nousi esille saksalaisessa yliopistomaailmassa 1970-luvulla, Jürgen Habermasin ja Reinhart Kocelleckin tapaiset tutkijat korostivat sen olevan myös vapautumista oman aikakauden ajattelun kahleista. Kun ihminen tiedostaa toimintansa ehdot historiallisiksi ja siis muutettavissa oleviksi, hän kykenee toimimaan vallitsevien käytänteiden muuttamiseksi (Ahonen 1998, 26). Se että kulutamme tällä hetkellä yli luonnon kestokyvyn ei ole luonnonlain kaltaisen vääjäämättömän kehityskulun tulos. Nykyisenkaltaiseen tilanteeseen on päädytty tietyn historiallisen prosessin seurauksena. Samalla tavoin myös tulevaisuus muovautuu ihmisten tekemistä päätöksistä ja valinnoista.

### ■語句・文法

nousta esille「登場する」/ Jürgen Habermas「ユルゲン・ハーバーマス」(1929-)はドイツの哲学者 / Reinhart Kocelleck「ラインハルト・コゼレック」(1923-2006)はドイツの歴史学者 / tapainen「~のような」/ korostivat sen olevan「それが~であると強調した」[分構] (olevan[属]< oleva < 能現分 < olla) / vapautumista「自由になること、解放さえること」[分]< vapautuminen 動名 < vapautua < vapauttaa < vapaa / kahleista「足かせから、手かせから」[出]< kahleet [複主]< kahle (ふつう複数形で使われる語です) / tiedostaa toiminnan ehdot historiallisiksi ja muutettavissa oleviksi「行動の条件が歴史的であり、そして変えることのできるものだと認識する」(muutettavissa [複内]< muutettava 受現分 < muuttaa, oleviksi [変]< oleva 能現分 < olla) / vallitsevien käytänteiden「支配的な慣習の」(vallitsevien [複属] < vallitseva 能現分 < vallita, käytänteiden [複属]< käytänne) / muuttamiseksi「変えるために」[変]< muuttaminen 動名 < muuttaa / se että kulutamme tällä hetkellä yli luonnon kanto-kyvyn「我々が、この瞬間に自然の(環境)収容力

を超えて消費しているということ) (luonnon kanto-kyky「自然の(環境) 収容力」) / luonnon-laki「自然法則」 / vääjäämätön「不可避な、絶対的な」 / kehitys-kulku「発展の流れ、進歩、進行」 / nykyisen-kaltainen「現在のよう」 / tilanteeseen「状況へ」 [入] < tilanne / on päädytty「至ってきた」受完 < päätyä / seurauksena「結果として」 [様] < seuraus < seurata / ihmisten tekemistä「人々の行うよう」 (tekemistä [複出] < tekemä 動分 < tehdä)

### ●フィンランド語理解のための訳例

歴史認識という概念が登場したとき | ドイツの大学世界で | 1970年代に、 | ユルゲン・ハーバーマスやラインハルト・コゼレックのような研究者たちは強調した | それはまた自由になることであることを | 自分たちの時代の思考の足かせから。 [人が認識するとき | 自分の行動を条件づけるものを歴史的なものだと | そして、つまり、変えることのできるものだと]、 | 人は行動することができる | 支配的な慣習を変えるために。 < 次のような > [ことは | 我々が消費している | 現時点で | 自然の < 環境 > 収容力を超えて] | ~ [ない | 自然法則のような不可避的な発展の流れの結果では]。 現在のよう状況に | 至った | ある歴史的な過程の結果として。 同様に | また未来も形成される | 人々が行う決定や選択によって。

### ◎意識

1970年代にドイツの大学世界において歴史認識という概念が登場してきたとき、ユルゲン・ハーバーマスやラインハルト・コゼレックのような研究者たちは、それはまた自分たちの時代における思考の足かせから解放されることでもることを強調した。自分の行動を条件づけるものがあくまでも歴史的に生み出されたものであることを、つまり、それらは変えることのできるものであることを認識すれば、人間は支配的となっている慣習を変えるために行動することができるはずだ。現時点において我々が自然の環境収容力を超えて消費しているということは、自然の法則のような不可避的な進歩の結果ではない。現在のよう状況へ至ったのは、ある歴史的過程の結果に過ぎないのである。同様に未来もまた、人間が行う決定や選択により築かれるものなのである。

### ☆引用文献の中の文献注

【51】の中にある文献注で示されているのは次のものです。

Ahonen, Sirkka 1998. Historiaton sukupolvi? Historian vastaanotto ja historiallisen identiteetin rakentuminen 1990-luvun nuorison keskuudessa. Helsinki: Suomen Historiallinen Seura

### ★補足

ここまで読めば明らかなように、持続可能な未来を構築するためには現在の我々の在り方を変えなければなりませんし、そのためには、現在の我々の在り方がどのようにして生まれてきたのかを知る必要があります。現在の我々の在り方はけっして唯一の選択肢だったわけではなく、何らかの理由により我々が選択した結果として存在するものです。そのことを学び研究することが「歴史」という教科目や「歴史学」という学問の目的であり、だからこそ「歴史」はまちがった思い込みや誤りから我々を解放してくれるのでしょう。そう考えれば、課題では歴史上の人物・偉人の功績について調べ

させ、試験では年号や人名を問いたすようなことは、少なくとも大学レベルの歴史の授業の中身とはいえないでしょう。

それでは、資料Ⅲ-5とⅢ-6全体の結論へ進みます。今回の資料は、これで終わりになります。

#### 【52】文化が変化しなければ、法律や条約の文言では何も変わらない

Ilman kulttuurista muutosta millään sopimuksella tai säädöksillä ei saavuteta kestävää kehitystä, jossa kulttuurin virta mukautuisi ekosysteemin rajoihin.

#### ■ 語句・文法

millään sopimuksella tai säädöksellä「いかなる条約や法律によっても(～ない)」(millään[接]<mikään, sopimus「条約、協定」< sopia, säädös「法律、法令」< säätää) / ei saavuteta「成し遂げられない」受現否 < saavuttaa < saapua / virta「流れ」 / mukautuisi「適応するだろう、沿うだろう」[条] 現単 3 < mukautua / rajoihin「境界線へ、限界へ」[複入] < raja

#### ● フィンランド語理解のための訳例

文化の変化なしには|どのような条約や法律によっても|成し遂げることはできない|持続可能な発展を、|その<持続可能な発展の>中では文化の流れはしたがうだろう|生態系の限界に。

#### ◎ 意訳

文化の流れが生態系の限界にしたがうような持続可能な発展というものは、<我々人間の行動様式や生活様式、そして価値観の総体である>文化が変化しなければ、いかなる条約や法律によっても成し遂げることなどできない。

#### ★ 補足

ここまで勉強してくると、私自身は斎藤幸平さんという研究者の次のような記述を思い出します。

では、国連が掲げ、各国政府も大企業も推進する「SDGs(持続可能な開発目標)」なら地球全体の環境を変えていくことができるだろうか。いや、それもやはりうまくいかない。政府や企業が SDGsの行動指針をいくつかなぞったところで、気候変動は止められないのだ。SDGsはアリのバイ作りのようなものであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかない。

かつて、マルクスは、資本主義の辛い現実<sup>つら</sup>が引き起こす苦悩を和らげる「宗教」を「大衆のアヘン」だと批判した。SDGsはまさに現代版「大衆のアヘン」である。

アヘンに逃げ込むことなく、直視しなくてはならない現実、私たち人間が地球のあり方を取り返しのつかないほど大きく変えてしまっているということだ。

#### 📖 引用文献

斎藤幸平. 2020. 『人新生の「資本論」』集英社新書. 3-4 ページ.

たとえば、「北欧デザインってすてき」とか「北欧家具で部屋をおしゃれに」とかいいながら、大量

生産の安い製品を頻繁に買い替えるような生活をしていけば、とても持続可能は発展とはならないでしょう。それらがたとえ北欧の企業の製品であったとしても、そのような行為はただただうわべだけの「北欧」を追い求めるにすぎないのではないかと思います。もちろん、「北欧」や「北欧デザイン」に何を求めるかは個人個人の問題です。ただ、少なくとも私は大量生産の北欧製品を買い求めて満足するような生活はしたくありませんし、それは私が価値を見いだす「北欧らしさ」とは程遠いものです。もちろん、これは私個人の「北欧観」ですが。

#### ◆出典

**【28】【29】【30】【31】【32】【33】【34】【35】【40】【41】【42】【43】【44】【46】:**

Salonen, Arto O. 2013. "Ekososiaalinen sivistys kulttuurin kulmakiveksi". Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatus – kulttuuria etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisuja 6*. Erweko Oy. 40-69.  
<[https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava\\_kasvatus.pdf](https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatus.pdf)>.

【28】54 ページ、【29】56 ページ、【30】42 ページ、【31】64 ページ、【32】62 ページ、  
【33】44-45 ページ、【34】53 ページ、【35】56-57 ページ、【40】【41】49 ページ、  
【42】58 ページ、【43】【44】59 ページ、【46】43-44 ページ

**【36】:**

Soini, Katriina. 2013. "Kestävä kehitys ja kulttuuri". Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatus – kulttuuria etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisuja 6*. Erweko Oy. 12-23.  
<[https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava\\_kasvatus.pdf](https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatus.pdf)>.

【36】22 ページ

**【37】【47】:**

Laine, Marja. 2013. "Kulttuurisesti kestävä kasvatus". Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatus – kulttuuria etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisuja 6*. Erweko Oy. 98-117  
<[https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava\\_kasvatus.pdf](https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatus.pdf)>.

【37】【47】105 ページ

**【38】【39】:**

Seilo, Marja-Leena. 2013. "Taito = avain". Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatus – kulttuuria etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisuja 6*. Erweko Oy. 340-349

<[https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava\\_kasvatus.pdf](https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatus.pdf)>.

【38】【39】347 ページ

【45】:

Opetushallitus. 2014. Perusopetuksen opetussuunnitelman perusteet 2014. <[https://www.oph.fi/sites/default/files/documents/perusopetuksen\\_opetussuunnitelman\\_perusteet\\_2014.pdf](https://www.oph.fi/sites/default/files/documents/perusopetuksen_opetussuunnitelman_perusteet_2014.pdf)>.

【45】16 ページ

【48】【49】【50】【51】:

Berg van den, Marko. 2013. ”Näkökulmia historiatietoisuuteen”. Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatus – kulttuuria etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisu* 6. Erweko Oy. 132-138.

【48】【49】133 ページ、【50】137 ページ、【51】134-135 ページ

【52】:

Siivonen, Katriina. 2017. ”Kulttuurinen kestävyys”. Enqvist, Kari, Ilari Hetemäki & Teija Tiilikainen (toim.). *Kaikki vapaudesta*. Gaudeamus. 219-228.

【52】227 ページ

\*\*\*\*\*

## 🐍 蛇足

日本ではここ数年の間に「ハロウィン」が急速に浸透してきたように感じます。ただ、それはただの仮想大会で大騒ぎをすることだけが目的のようです。人間にとって日常から離れ大騒ぎをすることは、おそらくとても重要なことだと思います。たとえば、日本各地にあるお祭りなどの伝統も、日常からひととき離れることで逆に日常を続けるための区切るとなるといった、とても重要で深い意味があるのだらうと思います。ただ、現在の日本におけるハロウィンやバレンタインデーは、ただ消費のための新たな機会を作り出すことだけが目的になっているように感じられて仕方ありません。そんな新たな消費の機会に、平気で、というよりはむしろ積極的に子どもたちを巻き込んでいることと、今回の資料で読み進んできた内容とがどうしても頭の中でぶつかり合います。どうやらフィンランドでも同じようなことが起こってきているようです。

## 【🐍】ハロウィンやバレンタインデーって何なのだろう

Toiseksi kalenteriin voi markkinoiden myötä tulla uusia perinteitä, niin että juhlien lisäämisen intressi on ainakin osin kaupallinen. Kiinnostava esimerkki tällaisesta on halloween, joka kurpitsoineen on tullut paitsi tavarataloihin myös päiväkoteihin ja kouluihin. Myös ystävänpäivä on esimerkki uudenlaisesta perinteestä. Uusissa merkkipäivissä ei ole mitään vikaa — kyllä kalenteriin juhlia mahtuu. Ongelmallista sen sijaan saattaa olla kaupallistuminen ja merkityksen keskittyminen erilaiseen tavaraan, kuten näyttäisi tapahtuvan halloweenin kohdalla. Pyhäinpäivän tapaan muistella menneitä sukupolvia ja samalla mietiskellä hetken verran omaakin kuolevaisuuttaan uhkaa peittyä karnevalistisen humun alle. Riehakkuuttakin toki tarvitaan, ja parhaimmat juhlaperinteet kantavat aina mukana monia merkityksiä. Silti on vakavasti kysyttävä, tuottaako myöhäiskapitalistinen kulutusyhteiskunta latistettuja traditioita vailla syvyysulottuvuutta.

### ■ 語句・文法

markkinoiden myötä「市場とともに」／lisäämisen「増やすことの」[属] < lisääminen 動名 < lisätä  
／intressi「利益、利害、目的；関心」／osin「一部では、部分的には」[複具] < osa／kaupallinen  
「商業的な」< kauppa／kiinnostava「興味深い、興味を引くような」能現分 < kiinnostaa／  
kurpitsoineen「カボチャとともに」[共]+ 単 3 所接 < kurpitsa／ystävän-päivä「友人の日、バレン  
タインデー」／merkki-päivä「記念日、特別な日」／vika「欠点、問題、故障」／mahtua「入れる、入  
る余地がある」／kaupallistuminen「商業化、営利化」動名 < kaupallistua < kaupallistaa <  
kaupallinen < kauppa／keskittyminen「集中すること」動名 < keskittyä < keskittää < keski-  
näyttäisi tapahtuvan「起こっているようだ」[分構] (näyttäisi[条] 現単 3 < näyttää, tapahtuvan  
[属] < tapahtuva 能現分 < tapahtua)／kohdalla「～において」[接] < kohta／pyhäin-päivä「諸  
聖人の祝日、キリスト教の祭日」／muistella「思い起こす、回想する」< muistaa／menneitä suku-  
polvia「過去の世代を」(menneitä[複分] < mennyt 能過分 < mennä)／mietiskellä「思索にふけ

る、考え込む、思いを巡らす」< miettiä/hetken verran「一瞬の間、しばらくの間」/kuolevaisuutta「死すべき運命」< kuolevainen < kuoleva < kuolla/uhkaa peittyä「うずもれてしまう危険がある」(uhata + A 不「~する危険がある」、peittyä「覆われる、隠れる」) /karnevalistisen humun alle「カーニバル的な騒ぎの下へ」(karnevalistinen「カーニバルの」) /riehakuutta「お祭り騒ぎ」[分]< riehakkuus < riehakas/parhaimmat「最善の」[複主]< parhain = paras/kantaa「運ぶ、もつ」/on kysyttävä「尋ねるべきである」(kysyttävä 受現分 < kysyä) /myöhäis-kapitalistinen「後期資本主義の、晩期資本主義の」/kulutus-yhteis-kunta「消費社会」/latistettuja「平たくされたような、上っ面だけの、薄っぺらな」[複分]< latistettu 受過分 < latistaa < lattea/vailla syvyys-ulottuvuutta「深さなしで、深みなしで」(syvyys「深さ」< syvä, ulottuvuutta「次元」[分]< ulottuvuus < ulottuva 能現分 < ulottua)

### ●フィンランド語理解のための訳例

二番目に|カレンダーには|ありうる|市場とともに|来る|新しい伝統が、|そのために|祝祭が増えることの|関心は|少なくとも部分的に|商業的である。興味深い例は|このようなことについて|ハロウィンである、|それはカボチャとともに|来た|デパートに加え|また保育園や学校へ。またバレンタインデーも例である|新しい種類の伝統について。新しい記念日には|何も問題はない|—|だってカレンダーには|祝祭が入る余地はある。問題なのは|その代わりに|かもしれない|商業化すること|そして意味が集中すること|さまざまな品物へ、|ハロウィンにおいて起こっているように。祭日の習慣は|[思い起こすための|過去の世代を|そして同時に|思いを巡らすための|少しの間|自分自身の|死すべき運命についても]|うずもれてしまう危険がある|お祭り騒ぎも下へ。お祭り騒ぎも|たしかに|必要だ、|そして最高の祝祭の伝統は|もっている|常に|携えて|多くの意味を。それでも真剣に尋ねるべきだ、|[もたらすのかどうか|後期資本主義の消費社会は|薄っぺらな伝統を|深みのない]。

### ◎意訳

第二に市場の論理によってカレンダーには新しい伝統行事が加わることがあるが、そのようにして祝祭を増やそうとする際の関心事は少なくとも部分的には商業的なものである。このことについての興味深い例がハロウィンだが、それはカボチャとともにデパートだけではなく保育園や学校へも入り込んできた。またバレンタインデーも、こうした新しい種類の伝統行事の一例だろう。新しい記念日ができることそのものには何も問題はない—カレンダーには記念日が入る余地はあるのだから。それに対して問題だと思われるのは商業化してしまうことであり、あるいは、ハロウィンがまさにそうであるように、記念日の意味がさまざまな商品へと集中することである。祭日に過去の人々のことを思い起こし、同時に自らもいつかは死ぬ運命にあるということに思いを巡らす習慣は、どんちゃん騒ぎの陰にうずもれてしまう危険性がある。お祭り騒ぎももちろん必要だろうし、すばらしい祝祭の伝統というものは常に多くの意味を担っているものである。しかし、それでも、我々の生きる後期資本主義的な消費社会というものは、何の深みももたないただただ薄っぺらな伝統を生み出しているのかどうか、真剣に問うてみる必要があるはずだ。

◆出典

Komulainen, Jyrki. 2013. Kohti koulujen monipuolista juhlakalenteria. Toivanen, Paula & Marja Laine. *Kestävä kasvatus – kulttuuria etsimässä, Suomen kulttuuriperintökasvatuksen seuran julkaisuja 6*. Erweko Oy. 159-168. (引用部分は 165 ページより)

<[https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava\\_kasvatus.pdf](https://www.kulttuuriperintokasvatus.fi/wp-content/uploads/2015/04/Kestava_kasvatus.pdf)>.